

●題名

2014年9月14日(日)-15日(月) 利根川湯檜曾川本谷

●参加者

松村(リーダー、記録)、落合(サブリーダー、装備、食糧)、荻原

●ルート選定

初級者憧れの有名ルートであり、その名声に違わず、変化に富んだ楽しい沢だった。

●行動記録

【9/14】

4:50 白毛門駐車場

6:00 武能沢出会

6:30 魚止滝

8:30 十字峡

9:30 抱き返り滝(登攀後)

10:50 10m 滝

12:10 大滝

13:50 1390m 二俣(幕営)

【9/15】

6:00 出発

6:40 1600m 二俣

8:00 稜線

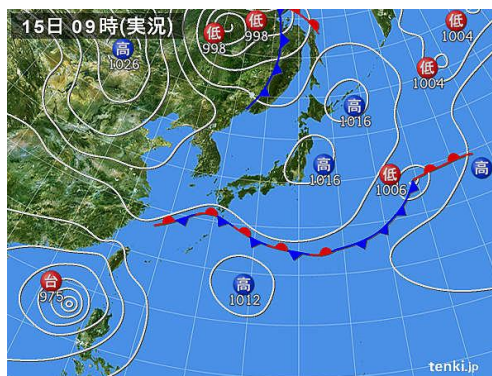
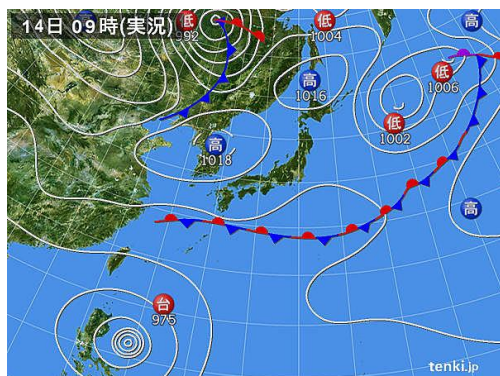
10:30 白毛門

12:50 白毛門駐車場

●天気図

14日は朝方に雨が降った。終始曇り空でときおり晴れ間が覗いた。

15日は晴れ時々曇り。



●写真と記録

3連休の中日のためか、白毛門駐車場には50台近い車があった。

沢靴を履いて出発する。途中の林道は最後の方がひどい泥道になっていたのでも沢靴で正解だった。

途中で雨が降ってくる。

武能沢出会で入渓準備。

湯檜曾川を進むとすぐに川幅が狭まり、魚止滝に付く。左壁を登るが、濡れたスラブが非常に滑るため残置スリングをA0して登る。苔があるわけでも無いのにフェルト靴のスエアが効かなかった。この滑りようは、「このまま遡行して大丈夫なのか？」と我々初級者3名をかなりビビらせた。

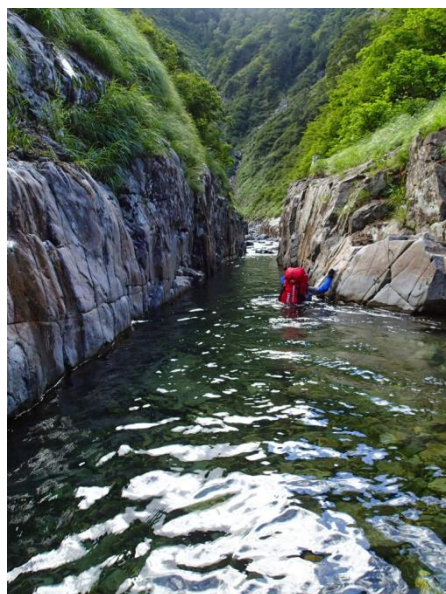


魚止滝を越えると、そのまま高巻き道に入る。その後、広い河原に降りたつ。

少し歩くと深い釜を持つ小滝があり、まさかの泳ぎを強いられる。油断していたので水の冷たさが身体に堪えた。昨年の同時期に行った沢では、カンカン照りだったのでむしろ自ら泳ぎに行ったのだが、今年は秋の訪れが早い。

しばらく行くとウナギ淵。水量が胸までなら…と泳ぎを試してみるが、すぐに足がつかなくなるほど深くなり諦める。戻って左岸を巻く。

暑かったら泳ぎたくなるようなロケーションだった。



ウナギ淵から抱き返り滝までは難しいところは無いが、沢のスケールが大きい。意味もなく緊張した。

そして、抱き返り滝の上部スラブで緊張の頂点をむかえた。トポには特に難しいとは書いてないのだが、プロテクションがとれずにぬめったスラブを肝を冷やしながらか登った。全行程を通じてここだけが恐怖を感じる登攀だった。

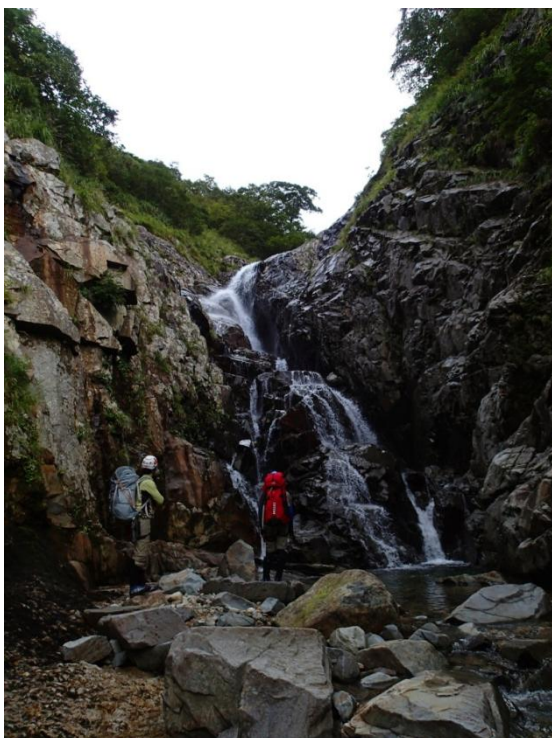
難しいと噂の 10m 滝に着く。水量が多いので、左壁を登るか左岸の草付を巻くか相談していると、男性 2 人のパーティーが追いついてきた。先を譲ると、すこしオブザベした後にロープ無しのシャワークライミングで左壁を登っていった。やはりロープ無しだと行動が早い。

結局、我々は草付を巻いた。筆者は草付のトラバースが苦手なので、アイスハンマーに頼りつつフォローで登る。

40m 大滝に着くと先行パーティーが登っている最中なので、大休憩をとる。

ここで合羽の上を着込む。暖かくて感動する。横着せずに最初から着ていればよかったと反省した。

大滝登攀は、途中から左壁に逃げるルートは階段状で易しかった。直登はスラブ状なので難しそうだ。ビレイ点にハーケンがばっちり決まるので安心登攀である。登攀中に晴れ間がのぞいた。



大滝を越えると難しいところはない。ルンルン気分で二俣へ。

この日の二俣は2パーティーだった。二俣にはあちこちに整地されたテントサイトがある(4張り以上?)。

夕飯はカレー。落合がたき火で米を炊いてみたいというので、やらせてみる。初めてなのに素晴らしく上手に炊けて驚く。慌てて手順を思い出そうとするが、適当にやっただけなので手順を思い出せない。「適当にやっとなら大丈夫なんだよ」と諦めて寝る。

隣のパーティーはすきやきのような感じだった。



明け方が冷え込んだ。筆者は寝袋無しだったので2人の間に寝かせてもらったが、やはり明け方は寒くて起きていた。震えながら、3人分のザック(外に置いてある)を繋げて体を入れたら暖かいだろうか…などと妄想をしていると、隣のパーティーが起きて出発していった。準備が早い。

右俣を朝日岳に向かって詰め上げる。1700mあたりまで水があり、涼しく登る。最後は踏み跡が明瞭な背丈ほどの笹を抜けると登山道に出る。



稜線は風が無く暑かった。白毛門の下り(1700m→700m)で完全に足がやられる。白髪のおじいちゃんが「白髪のワシが白毛門に登ったぞ！(しかも敬老の日に)」とはしゃいでいたが、元気さを見習いたい。1100mあたりで急に怒りがこみ上げてくるくらいに、下りがつらかった。下山後4日間筋肉痛が続いた。

●まとめ

- ・有名ルートなので、事前情報が豊富に得られる上にルート上にも人の気配(踏み跡やハーケン)があり、未知の部分が少なかった。それにも関わらず冒険的気分を味わえるスケールの大きい沢だった。
- ・テント場が非常に快適だった。薪も豊富でたき火を堪能した。この素敵なテント場を維持するためにゴミ・排泄物は持ち帰ろう。
- ・開けた沢であり、晴れた日は素晴らしい遊行になるだろう。ただ、あまり天気が良いと朝日岳からの下山が心配である。
- ・思ったよりも行動に時間が掛った。テント場を同じくしたパーティーを見て感じたが、工夫すればもっと早く行動できると思う。このルートを1日で登る記録もあるが、常人離れした体力・登攀力が無くても達成可能な課題だと感じた。雪山と同じく、判断・生活技術を向上して行動時間を短縮したい(筆者は加齢とともに体力が低下する一方なので…)